

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
IgG4 関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究
分担研究報告書（令和元年度）

自己免疫性膵炎に関する研究

研究分担者 氏名 仲瀬 裕志 所属先 札幌医大消化器内科 役職 教授
研究協力者 氏名 本谷 雅代 所属先 札幌医大消化器内科 役職 助教

研究要旨：1型AIPの診断には病理組織学的所見が重要である。近年、組織標本の対象はEUS-FNAによる検体が用いられるが、組織診断能は高くない。また、ICDCではcore biopsyが推奨されており、より良好な組織検体を採取するための実臨床に則した至適なFNA針を明らかにするため多施設共同ランダム化非盲検検証的試験を計画した

共同研究者
矢根 圭
(手稲溪仁会病院消化器内科 主任
医長)

A. 研究目的
1型AIPを疑いEUS-FNAを予定した症例
に対し、19G franseen針の1型AIPに
対する病理学的診断における有用性を
22G franseen針と比較、検証すること。

B. 研究方法
本研究の参加施設で診療を行い、
1型AIPを疑って病理学的診断目的に
EUS-FNAを施行予定の者を対象とする。
デザイン：多施設共同ランダム化非盲検
検証的試験

(倫理面への配慮)
「ヘルシンキ宣言（2013年10月修正）」
及び「人を対象とする医学系研究に
関する倫理指針」（平成26年文部科学省
・厚生労働省告示第3号、平成29年
2月28日一部改正）を遵守して実施する。

C. 研究結果
本年度研究計画を立案。手稲溪仁会病院
を研究事務局として多施設共同ランダム
化非盲検検証的試験として研究計画を
作成した。1型AIPを疑って行うEUS-FNA
の際に、19Gから開始し同一症例で22G

でも施行する群と22Gから開始し19G
でも施行する群の2群にランダム化して
検証する。
本年度4月より登録開始し現在17症例
(当院10症例) 登録中

D. 考察
研究継続中

E. 結論
研究継続中

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
IgG4 関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指す研究
分担研究報告書（令和元年度）

自己免疫性膵炎に関する研究

研究分担者 氏名 仲瀬 裕志 所属先 札幌医大消化器内科 役職 教授
研究協力者 氏名 本谷 雅代 所属先 札幌医大消化器内科 役職 助教

研究要旨：1型AIPの診断には病理組織学的所見が重要である。当院ではこれまでもEUS-FNAを用いAIPの病理診断を行ってきたが、その成績を後方視的検討に検討した。その結果半数で4項目中3項目が陽性であり、病理所見でのAIPの診断が可能であった。フランシーン型FNA針での陽性率が高く診断に有用であった。

共同研究者：なし

A. 研究目的

当院における1型AIPにおけるEUS-FNAの病理学的診断能を明らかにする。

B. 研究方法

後ろ向き観察研究

（倫理面への配慮）

「ヘルシンキ宣言（2013年10月修正）」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号、平成29年2月28日一部改正）を遵守して実施する。

C. 研究結果

主要評価項目：JPS2018 病理所見における各項目の陽性率①高度のリンパ球、形質細胞の浸潤と線維化：85.3%、②強拡1視野当たり10個を超えるIgG4陽性形質細胞浸潤：55.9%、③花筵状線維化：73.5%、④閉塞性静脈炎：26.5%
副次的評価項目：各FNA針における病理所見4項目中3項目の陽性率：

フランシーン針が83.3%と陽性率が高かった。

D. 考察

半数で4項目中3項目が陽性であり、病理所見でのAIPの診断が可能であった。フランシーン型FNA針での陽性率が高く診断に有用であった。

E. 結論

以上よりAIPの病理診断のためにはフランシーン型針の使用が有用と考えられるが、今回の検討は後方視的検討であり前向き研究が求められる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

JDDW2019

APA・JSP合同会議

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし